

人材募集をしたことがないケアマネ事業所 「介護業界で働く人の最大幸福」を追求

北海道札幌市で2016年に居宅介護支援事業所を開設した計良周さんは、「人材募集をしたことがない」と羨ましい一言。スタッフのモチベーションを維持する働きやすい職場づくりの効果だ。介護業界での人材の循環にもつながるその施策の背景には、介護事業所経営の特性を逆手に取った働き方改革、生産性向上の仕掛けづくりがあった。

作業療法士から居宅介護支援事業所設立 きっかけはケアプランの「質」へのこだわり

——計良さんは居宅介護支援事業所を開設されるまで、作業療法士をされていました。なぜ、ケアマネ事業所運営に舵を切ったのですか？

リハビリ職として担当者会議等に出席してケアプランを拝見した時に、自分ならもっとこうするのにと感じることが多くありました。ケアプランの作成方法はリハビリの支援計画と同じ部分が多くあるので、在宅でより良いケアマネジメントをしたいという思いから、ケアマネジャーの資格を取って居宅介護支援事業所を設立しました。

——ケアプランの質の追求がきっかけだったのですね。

そうですね。開業から9年目に入り、リハビリ専門職の視点でのケアマネジメントの良さが地域に浸透してきたことを実感しています。スタッフも増えてきました。1人で始めた事業所ですが、今では25名のケアマネジャーと2名の事務スタッフが在籍する事業所になりました。主任ケアマネジャーは14名、そのうち認定ケアマネジャーも持っている方が2名です。経験年数や年齢は幅広く、70歳以上の方も1人います。要介護度2までの利用者さんが多いため、特定事業所加算は



取材協力▶

計良 周さん

株式会社アプシエイト 代表取締役
けいら居宅介護支援事業所 主任介護支援専門員 作業療法士

IIを取得しています。札幌市全域を対象エリアにしているのですが、広いですし冬は降雪で交通渋滞も多いので、1エリアを1人が担当するのではなく、担当エリアが重なるようにして、負担を減らすようにしています。スタッフに対応可能なエリアを聞いて、個々に応じたエリア分けをしています。

——多彩なバックグラウンドのケアマネジャーが在籍しているのも特徴です。

私と同様にリハビリ職出身、看護師、歯科衛生士、社会福祉士、介護福祉士等、多様な基礎資格の人が集まっています。年齢層も基礎資格も幅広いので、困りごとがあったときにはLINEで質問を投げかけると、経験や専門知識からの確かなアドバイスがもらえるのもメリットです。

国からの報酬には限りがある 介護業界で働き続けるための改革

——計良さんは2016年の居宅介護支援事業所開設当初から、働き方改革や生産性向上に積極的に取り組んでこられました（図1）。

経営者として、会社が仕事へのモチベーションが上がる労働環境を整える対策を取ることが生産性向上だと思います。先ほどお伝えしたように、担当エリアが選べ、自分の専門性を生かせる環境というのも、その手段の1つです。利用者さんも質の高いケアが受けられますよね。この数年は社労士さんに相談して、実現可能な限りより良い環境づくりを進めています。スタッフもそれを実感してくれているようで、スタッフからの紹介で入社してくれる人が増えています。ケアマネジャー不足が深刻になっていますが、当事業所は人材募集をしたことがありません。入社の際は私が面談をして、利用者さんやご家族に真摯に向き合う姿勢のある方に入社